

関西大学 初等部
2018 年度学校評価報告書



2019 年 3 月

目 次

1. 本校の概要.....	1
2. 点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見.....	1
3. 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策.....	5
4. 校長の意見書.....	15
5. アンケート結果.....	15

1 本校の概要

(1) 沿革

2010 年（平成 22 年）4 月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに 12 年一貫教育を行う。学級数 12、児童数 366 名、教員数 33 名（専任 21 名、非常勤 10 名、特任外国語講師 2 名）である。

(2) 建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動 ー学びを深め 志高一」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2 点検・評価の結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見

点検・評価の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>アンケートの実施状況について アンケート結果の分析 教員・保護者アンケートについて</p> <p>全体を通して、保護者の評価は今回も肯定的評価が 90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたことは学校にとって非常に嬉しい結果であると考えている。また、教員についても、今回のアンケート結果は昨年度と比較して全体的に肯定的評価が伸びている。各教員が昨年度の結果をもとに自身や学校全体の教育活動を改善してきた成果として評価したい。以下、いくつかの項目についての分析を述べる。No. 1 は本校の私学としての独自性・認知度を、No. 2・3 は初等部教育全体に対する納得度・満足度を尋ねているが、保護者についてはいずれも肯定的評価が 98～99%と非常に高い評価となっている。教員については、No. 1 の肯定的評価が少し下がっているが、他の 2 項目については肯定的評価が上がる結果となった。No. 4 から No. 15（保護者は No 9, 10 は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどの</p>	<p>・小学校教育では、自分で考えるきっかけや勉強するきっかけを与えることが大切であると考える。中等部・高等部の先生方には、初等部での教育内容を理解してもらったうえで、初等部での学習に基づき、自分で勉強していくように繋げていければよい。</p>

ような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が 90%を上回っており、初等部の授業、取組に対して満足してもらっていると考えているが、その中で No. 8 (家庭学習)、No. 11 (工夫した英語授業)、No. 13 (図書館活用)、No. 14 (積極的な読書指導) については 2～5 ポイント肯定的評価が下がっているため、次年度の教育活動にいかしたい。教員評価では、評価の下がっているカリキュラム作成 (特に中等部接続、英語、新教育課程) について、初中連携会議や初等部の教科等部会を中心に検討を進めたい。No. 15 (ICT 活用) については、教員の評価が上がっている。部会を中心に教員研修を継続してきた成果が出ていると捉えたい。No. 16 (教育内容の発信) については保護者の肯定的評価がわずかではあるが下がっている。HP に加え、有効な情報発信手段について検討したい。

No. 17～21 は生徒指導及び特別活動に関する項目である (保護者は、No. 21 無し)。教員については、いずれも昨年度より評価が上がっており、1 年の取組の成果がこの結果につながったと考えている。保護者評価は肯定的評価が 90%を超えてはいるものの、昨年度と比較するとややポイントが落ちているので、さらに各取組の充実を図りたい。

No. 22～27 の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、保護者、教員ともに高評価となっており、各取組が定着し、保護者の理解も深まってきた結果であると考えているが、No. 25 (人権教育) については、教員の肯定的評価が 70%に届いていないので、各学年のカリキュラム、全体の行事等についてさらに検討を進めたい。

No. 28 から No. 32 (保護者は No. 28, 30 無し) は安全管理に関する項目である。保護者、教員ともに、肯定的評価が上がっている。今年度は、地震・大雨等、危機対応が必要な事象が複数生じたが、その際の学校全体としての取組の成

・本来であれば家庭の中で親が子どもに教育やしつけとして行うべきことができていないケースがあり、学校が担わざるを得ない状況になっているのは学校現場全体の課題である。

・地域の方々の応援や協力が必須で、学校と家庭と地域が協力することが大切である。公立校であれば、保護者と地域住民との情報共有も容易であるため、児童の問題行動も早期に発見できるが、私立小学校では地域との連携が難しく、先生方も苦勞されていると思われる。

・南海トラフ地震が発生した場合、メールを含めて、多くのインフラが使えないことが想定される。学校として、メールが使えない前提でどのような方法で保護者に情報を伝えるかを検討しておく必要がある。例えば、ラジオ局と提

果が教員の自信、保護者の信頼につながったのではないかと考えている。

No. 33、34、35（保護者はNo. 34 無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価は昨年度とほぼ同様の結果であるが、教員についてはNo. 34（思考スキルを取り入れた指導）の評価が下がっている。これについては、本校がこれまで進めてきた思考スキルを習得・活用する取組を継続していたものの、今年度研究テーマを変更して実践・研究に取り組んだことで、思考スキルをいかした授業デザインが少し薄まったことが影響していると思われる。次年度に向けた課題として、研究部会を中心として検討を進め全体での研修を活性化させたい。

No. 36 は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。昨年度、それまでの低い評価を大きく改善することができたが、今回は教員の評価も含め少しポイントを落とす結果となった。今年度も5、6年生の保護者対象の内部進学説明会の内容等をさらに改善するとともに、全校保護者を対象としたお話し会を実施し中等部の管理職が情報を提供する機会を設けたが、次年度以降も、これらの取組にさらに工夫を加えていきたい。No. 38（保護者は無し）は関西大学との連携に関する項目である。昨年度と同様、半数以上の教員が課題有りと感じている。今年度は、継続して本校の研究

携しておいて、メールが不通となった場合はラジオを使って情報を伝えるなどの方法を決めておいて、保護者に伝えておくということが有効であるとする。究極の連絡手段を決めておくことが大切になる。

・橋の崩落などで道路も通れないこともあるため、すぐに迎えに来ることができない保護者が出ることも想定される。電車通学の児童も多いため、通学時間に震災が発生した場合、対応が困難になる。

・震災時は、学校での対応に加えて、先生方自身の家庭の対応も必要となるため、先生方の負担が大きくなる。そのようなことを予め保護者に理解しておいてもらうことも大切である。

・研究発表会の全体公開授業（算数）を参観したが、非常に面白い授業であった。参観の先生方も授業の内容に興味や驚きを持っていらしゃったように感じた。活発に児童が発表して、積極的に自分の意見を述べていた姿が印象的であった。

・授業の中で、児童への教員の問い掛けの仕方が大切で、勉強は教えられるものではなく、自ら学ぶということを教えることが必要である。初等部の授業では、この問い掛けが上手く機能している。

・質問項目36の「中等部進学に向けた適切な情報提供」について、中等部の内部進学説明会の説明内容が一般入試の受験生を対象とした入試説明のような内容がまだ多いと感じている。初等部児童の保護者は、初等部からの入学生が中等部や高等部でどのような学校生活を送っているのかということを知りたいと思っており、子どもたちが実際に中等部・高等部でどのように成長しているのかという点に興味を持っている。

・保護者への説明は、中等部の教員からだけではなく、初等部出身の生徒の学習状況やクラブ活動を含めた学校生活全体の状況を初等部の

に対し指導を受けている黒上教授に加え、英語指導で池田教授に指導助言をいただく機会を設けたが、今後、さらに可能性を模索していきたい。No. 39、40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。特に教員の評価が上がっているので、次年度以降も学校と家庭との密接な連携が進むようにしていきたい。

児童アンケートについて

No. 6（読書、資料活用 88%）以外は肯定的評価が 90%を超えており、概ね、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを肯定的に評価していることがわかる。No. 1、No. 2 は、初等部での在籍及び学校生活の評価であるが、肯定的評価が 99%、98%となっており、初等部生の誇りを持って充実した学校生活を送ることができたと思われる。

学習に関する項目では、No. 4（思考力がついたか）、No. 5（授業評価）は 95%を超える肯定的評価になっているが、No. 3（勉強意欲）、No. 6（読書や資料活用）に関しては、やや評価が低くなっている。特に、読書や資料活用については、図書館活用の取組をさらに充実させ学習意欲の喚起につながる支援を進めていきたい。No. 7 の ICT 活用については、これまでの取組の成果が出た評価であると考えられる。No. 8 は運動会や文化祭などへの参加意欲に関する項目である。肯定的評価が 98%と、児童が主体的に行事に取り組めたことを示している。生活面では、No. 10（いじめ・なかまはずれ）が 100%の肯定的評価となった。No. 9（学校生活のルール遵守）についても 100%に近づくよう、さらに生徒指導面、児童理解面を充実させたい。

教員が把握して説明するというような仕掛けも必要ではないか。

・初等部ではクラス担任制、中高等部では教科担任制であるため、教員の考え方も異なるのではないかと思われる。それぞれの教員から説明する機会を設けるなど、初等部と中等部で連携してもらいたい。

・大学への帰属意識に関して、初等部児童の保護者には関西大学出身者も多いため、初等部児童の千里山キャンパス訪問時に関西大学出身の保護者が同行して、保護者が自らの学生時代を子どもに聞かせる機会があれば、子どもたちの帰属意識も高まるのではないかと考える。

[学校関係者評価委員会委員名簿]

氏 名	所属及び役職
五十嵐 昭 夫	元高槻市古曽部町自治会 会長
山 崎 勝 久	元関西大学初等部教育後援会 顧問
小 澤 守	関西大学社会安全学部 教授 ※評価結果とりまとめ執筆者
田 中 達 也	関西大学初等部 校長

3 今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

- (1) 重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の成果を教科学習等だけでなく、児童の生活においても反映させるよう努めること

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取組計画及び評価指標(Plan)	自己評価
<p>ア 安定した学級経営と 学力向上</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導 (オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄への各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上) 校長による日常的な各学級回り(授業等参観) 児童の学力の向上に資する教員の研究授業(全専任1回以上)・研究会(年18回予定)の実施及び教科会議等の月1回の実施 研究発表会の開催(2月2日) 全国学力・学習状況調査結果(私立・国立小学校の平均点を上回る。) 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>学級経営にあたっては、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導・支援を行った。各担任や教科担当と管理職者の連携を密にし、児童・保護者・学級等の課題については早い段階で報告を受け、素早い対応に努めた。</p> <p>学力向上については、思考力育成に向け、今年度は児童のより主体的な学びの実現に向け、「ズレ」に注目した研究テーマを設定し実践・研究を進めた。</p> <p>ICT環境の整備とICTの活用については、児童の学びを深め広げるために、ノートパソコン、iPad、電子黒板、実物投影機等の機器を有効活用するとともに、iBooks等のデジタルデータの活用やプログラミング学習の試行等の取組を始めている。また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力を得ている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>機会あるごとに校長が各教室をまわり、児童の様子、教員の指導状況を見ているが、いずれの学級においても安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られる。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月1回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。6月に実施したオープンスクール参加の受験対象保護者のアンケートでは、「初等部の教室では、どの学年、学級でも子どもたちがいきいきと学ぶ姿が見られる。」「先生が一方向的に教えるのではなく、子どもの意見をうまく引き出している。」など、</p>

	<p>今回も児童の学びの主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。保護者アンケートにおいても、学級経営・学習指導に関するほとんどの項目で90%以上の肯定的評価をいただいた。また、今年度も校長を除く全専任教員が研究テーマに沿った研究授業を1回ずつ（計20回）行い、研究授業毎に、教科研究会または全体研究会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学の黒上先生をはじめ、各教科で助言者を招聘し指導を受けている。実践・研究のまとめとして2月に第9回の研究発表会を開催し、全学級計19本の授業、中等部においても、各学年の『考える科』の授業3本を公開するとともに、授業協議会、外部指導者によるパネルディスカッション及び講演会を実施した。今回も、全国から800名を超える申し込みがあるなど、高い評価を受けた。また、日常の学習活動に、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、多様な職種の方の支援を受けた。</p> <p>これまでの思考力育成の結果として、今年度も文部科学省の全国学力・学習状況調査において、全体平均はもちろんのこと、私立・国立小学校の平均点を上回ることができた。生活面においては、個人や集団として指導の必要なことはあったが、大きな問題事象が発生しておらず、保護者からの要望等については、担任、学年団で対応できている。また、通院を要するようないけが等の発生が減少していることから、思考力育成の取組の成果が、学習面のみならず、生活面にも表れ、児童が主体的に考え判断する「考動」につながっているのではないかと考えている。</p> <p>ICT環境・教育については、この3年間認定されていたADP（Apple Distinguished Program）の取組が評価され、新たに全国の小学校で唯一ADS（Apple Distinguished School）の認定を受けた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度は、これまでの取組を継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取組の成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めたい。また、学力状況の客観的指標である文部科学省の全国学力・学習状況調査については、今後も目標とする成績を維持するため、基礎基本の定着や児童の実態に応じたきめ細かな指導も充実させたい。</p> <p>また、児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生じた場合でも、学校全体で情報を共有し対応</p>
--	---

	<p>にあたりたい。</p> <p>ICT活用については、ADSの認定を糧とし、その活用方法、情報モラルの指導等についても十分に検討しながら学びの充実のために部会で検討を進め学校全体で取り組んでいきたい。</p>
<p>イ 図書館教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本（数十冊単位）貸し出し） ・ 図書館活用のための講座を各学年1回以上実施 ・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニメーション、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。また、各学年1回以上の司書による図書館活用講座の他、全校児童を対象の絵本作家による講演会も実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のために各教科等での情報収集の場としている。オープンスペースブックトラックには一定期間資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。</p> <p>1月末までの本の貸出数は、全校で約 56,000 冊となった。 (1年 13,800 冊 2年 12,000 冊 3年 9,400 冊 4年 10,000 冊 5年 7,200 冊 6年 3,800 冊)。2名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。また、外部講師として絵本作家の令丈ヒロ子氏を招聘し、児童への講演をお願いした。読書メソッドについては、本に対する興味・関心を高めるとともに、児童の思考を促す取組としても有効であった。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。貸出量については、ページ数や文字数等の関係で低学年と高学年の差はあるが、日常の読書量、読書内容、また資料活用について司書と連携して指導・支援をすすめるとともに、積極的な図書館活用につながる啓発を行っていきたい。図書を扱うルールやマナーについても引き続き具体的な指導を進めていく。図書館司書による読み聞かせ、読書支援、資料活用のための講座等について</p>

	<p>は、児童の学びを広げ深めるために効果的であり、また、絵本作家による講演は、絵本づくりの具体を知ることによって児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していきたい。</p>
<p>ウ 国際理解教育の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 <ol style="list-style-type: none"> ① 各学年（2年生以上）の国際交流取り組みの継続実施 ② 交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を、各学年3回以上実施 ③ 英語教育との関連づけ (テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を3～10コマ設定) (大学との連携による留学生との交流を高学年で実施。) 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>国際交流については、テレビ会議システムの活用や手紙や学習成果物の直接交流により2年生以上の学年で取組が定着してきた。その際、部分的に英語で質問や挨拶ができるよう英語のモジュール学習や授業の中で、学年の実態に応じた学びの場をつくっている。</p> <p>また、6年生は10月に実施しているオーストラリアへの修学旅行の中で、2日間パークデール小学校と交流し、3泊4日のホームステイも経験した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>テレビ会議については、交流相手校や関係機関と連携し、各学年（2年韓国・3年台湾・4年カンボジア・5年6年オーストラリア）ともに年3回以上実施できた。事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。また、台湾の太平小学校より児童・教員の訪問があり、交流相手と3、4年生が直接出会う貴重な機会を持つことができた。6年生の修学旅行では、事前に本学の学生から留学経験を聞く機会を持ったことでモチベーションが高まり、学校交流でバディを組んだ相手校の児童と仲よくなったり、今年度1日増やしたホームステイで児童が積極的にコミュニケーションをとろうとしたりすることができた。</p> <p>英語教育においては、四技能をバランス良く育てることをめざしてカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。1年生から4年生までは保護者向け英語発表会も実施している。また、国際交流や修学旅行実施にあたって、英語によるコミュニケーション力向上のための学習を、学年に応じ4～10コマ実施した。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学年毎の交流国は総合的な学習の時間の取組内容によって変わる可能性があり完全に固定することは難しいが、2年生の韓国、3年生の台湾、4年生のカンボジアを固定し、高学年では、総合のカリキュラムにより幅を持たせることで、学びをより効果的なものにしていきたい。</p>

	また、オーストラリアでのホームステイについては、次年度も4日間で実施したい。
--	--

(2) 重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 生徒指導・人権教育の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校全体で児童を指導・支援する体制の確立 (年度当初の『子どもを語る会』実施及び児童の情報交流を毎月実施) ・ 児童対象の生活アンケートを年2回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早期対応に努める。 ・ いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立 (生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応) ・ 人権教育の取組充実 (全児童対象の人権教育講演会を1回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立) 	<p>【取組状況 (Do)】</p> <p>今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導部、健康教育部の各主任と、教務主任・当該学年主任・担任からなる生徒指導連携会議を校内の生徒指導の中核として位置づけた。また、「子どもを語る会」や毎月の職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。</p> <p>人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。</p> <p>【達成状況 (Check)】 (○)</p> <p>年2回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導にいかすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通をすることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」については、年度当初に加え年度末にも実施し次年度への引き継ぎを行った。今年度、いじめ問題は生起していないが、不登校傾向のある児童は数名在籍していたので、担任だけが抱えることなく連携会議を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で未然防止・早期対応に取り組んでいる。人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めるとともに、講演会としては、病気のために言語・聴覚・右手麻痺の障害をのりこえ活躍されている方に具体的な話をしていただいた。また、ICT部会と連携し、高学年児童を対象とした情報モラルの学習会を実施した。</p>

	<p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っており、毎月の職員会議での報告事案はほとんどない状況であった。教員間の連携もスムーズであり多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。</p> <p>ただ、登下校、特に下校時については、児童の行動だけでなく保護者のお迎え等に関して一般の方からご指摘を受けることもあったので、教育後援会とも連携しながら特に保護者啓発に力をいれたい。</p> <p>また、人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、引き続き部会を中心に精査していきたい。</p>
<p>イ よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催(テレビによる全校集会を、年10回程度実施) ・ 児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会・・・月1回実施 ・ クラブ活動・・・年7回実施 ・ 全校たてわり活動 <ul style="list-style-type: none"> ・・・年5回実施 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。学校全体の大きな行事としては、運動会を5月、文化祭を11月に実施した。宿泊学習については、1年生から3年生までの高岳館を使った宿泊訓練、4年生のスキー合宿、5年生の南阿波体験学習、6年生のオーストラリアへの修学旅行がある。集団活動として、全校たてわり活動を年5回、5、6年生による委員会活動、4年生以上によるクラブ活動を実施した。また、昨年度に引き続きテレビ放送による全校集会も実施した。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>運動会、文化祭は今年度も保護者から好評であったが、宿泊学習については地震、大雨等により、3年生が中止、5年生の帰校が困難になるなど、大きな影響を受けることとなった。たてわり活動については、高学年の児童の意識が高くなってきており、それぞれのグループでリーダーシップを発揮して楽しい活動にするなど、取組が定着している。また、委員会活動については、5月に発足後、第1木曜日に活動を行い、奉仕活動を行うとともに、今年度は各委員会で月目標を設定し、テレビ集会等で全校に向け啓発運動を行うことができた。クラブ活動については、後期に発足後、月1回以上(今年度は計7回)実施し、文化系、スポーツ系ともに、児童が自主的、意欲的に活動を進めることができた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。宿泊学習については天候の影響等も勘案し、どのような形で実施していくか、今後の検討課題としたい。ま</p>

	<p>た、テレビによる全校集会については、次年度以降も実施し、生活目標等の提示により児童の学校生活全般にわたる自覚を高めるようにしていきたい。</p> <p>集団活動については、各教員が日常の学級指導を丁寧に行うことをさらに意識するとともに、今年度実施したたてわり清掃についてさらに充実を図りたい。また、クラブ・委員会活動については、それぞれのねらいをより明確にし、児童の自主的な活動の充実を図りたい。</p>
--	---

(3) 重点目標③： 管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取組計画及び評価指標 (Plan)	自己評価
<p>ア 安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施 (年3回実施) ・ 教育後援会(保護者)との連携及び啓発 (地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施) 	<p>【取組状況(Do)】</p> <p>登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会で具体的な指導を継続して行い意識の向上を図った。また、学校便り(初等部だより、生徒指導だより)により、安全に関する保護者への啓発を進めることに加え、教育後援会の活動として今年度も登下校見守り運動が行われた。</p> <p>管理面では一斉下校指導、地震・火災等の避難訓練、緊急時の児童引き渡し訓練、不審者侵入対応訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>今年度は、大阪北部地震や大雨による交通機関の混乱等、児童の安全に直接影響する事案が複数回生じた。特に、地震に関しては当日ほとんどの児童が登校していたものの、全員が帰宅するまでには長時間を要することになり、児童への安全指導、校内の安全管理、保護者との連携等、危機管理が直接問われることとなった。自宅が被害を受けた児童も複数名いたものの、幸い、怪我をした児童はなく、児童への指導支援、教員の動き、保護者への連絡等を円滑に進めることができた。保護者からも、学校への信頼が深まった旨の感想を多数いただいている。</p> <p>日常の安全指導・管理については、安全管理部を中心に、取組が定着した(4・8・1月：一斉下校指導 6月：引き渡し訓練 1月：避難訓練)。また、救命研修(6月)及び不審者対応訓練(9月)も行っている。児童の意識向上(特に登下校時の公共交通機関のマナー、ルールの遵守)については、一般の方からのご指摘や苦情が低学年を中心にあったが、都度、直接指導や全体への指導を行ってきた。また、教育後援会の地区</p>

	<p>委員会主導による見守り活動及び啓発活動については、保護者の活動として定着し委員以外の保護者にも広がりつつある。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>今年度の危機管理について課題となったことを総括し、法人全体の動きも見据えながら、次年度以降の対応改善につなげたい。また、校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全体集会での指導について検討し改善を進めたい。また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図る。</p>
<p>イ 安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月1回の調整会議を実施） 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との日常的な打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況について認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、年度末に保護者からの児童の状況についての書類をもとに、次年度の対応策について確認している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>日常的な打ち合わせ及び月1回の定例の会議では、よりおいしい給食をめざした献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。今年度も、高槻病院の医師によるエピペン研修を実施した。また、宿泊行事においては、事前に業者と密に連絡をとりあい、個々の児童の実態に応じた食事を用意している。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>給食、宿泊行事におけるアレルギー対応については、今後も万全を期したい。また、エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。</p>
<p>ウ より多くの出願をめざす入学試験の実施</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい入学試験内容・方法の 	<p style="text-align: center;">自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>受験生の保護者対象説明会・オープンスクール及び各幼児教室(塾)訪問と各教室主催の説明会での広報を継続して実施している。入学試験については、9月1日より14日まで親子</p>

<p>確立</p> <ul style="list-style-type: none"> 入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 年4回の学校説明会、オープンスクールの実施 年50回以上の幼児教室訪問 	<p>面接、21日（金）午前中に、ペーパーテストと行動観察を実施した。また、合格者対象の説明会、入学前のオリエンテーションを実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>今年度も、近畿圏において倍率を維持できた学校と定員を下回る学校の差が大きいが、本校については、出願数が大きく伸びた昨年度と比較すると減少したものの2倍は確保し倍率2.2倍となった。</p> <p>学校主催の3回の説明会や6月のオープンスクール、また、体験授業の参加数についてはいずれも昨年度を下回ったが、幼児教室主催の説明会についてはどの教室でも昨年度を上回る参加数となった。</p> <p>幼児教室については、年度当初に主な幼児教室を校長、教頭、広報主任が訪問し、広報用のちらし・ポスターを配布している。3月から8月にかけては、幼児教室主催の学校・入試説明会、11月から2月にかけては入試報告会において、校長が説明を行い、今年度も、年度当初の教室訪問と合わせ、訪問頻度目標を達成している。</p> <p>また、今回、ペーパーテストについて検討を加え難易度を下げ問題数も減らしたことで、受験生がこれまでよりじっくりと取り組む姿が見られた。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取組には魅力を感じるという感想が多くあった。関西の入試状況は厳しいが、出願倍率2倍以上の確保を継続するため引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動について検討する。</p> <p>また、今年度変更したペーパーテストの傾向については次年度以降も継続したい。</p>
<p>エ 中等部・保護者・大学との連携の充実</p> <p>【評価指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職連携（週1回の初中定例会議、月1回の管理職会議の実施） 教育後援会との密な連携（管理職、事務職、教育後援会役員・委員による月1回の実行委員会実施） 	<p>自己評価</p> <p>【取組状況(Do)】</p> <p>初等部と中等部の教頭、また、教頭と教務主任による週1回の初中定例会議の実施、月1回の管理職会議の実施により連携行事や調整事項について協議するとともに、年2回初中全体会議を実施した。</p> <p>保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取り合っている。中等部進学に向けての情報提供の場として5、6年生対象の内部進学説明会と、今年度も夏休み明けに、全保護者を対象とした中高等部の教育内容についてのお話し会を</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者対象の説明会の充実 （5、6年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施） ・ 教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、4年生社会・道徳の小大連携） 	<p>施した。また、教育後援会との連携では、月1回程度の実行委員会を開催し、学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、教育後援会独自の行事等について協議を行っている。関西大学からは、研究や授業への指導・協力、留学生の紹介、国際交流支援等を受けている。また、4年生の千里山キャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取組も実施している。</p> <p>【達成状況(Check)】 (○)</p> <p>初中連携については、初中定例会議の実施が行事だけでなく、体育等の授業時間・場所の調整による授業の円滑実施につながっている。管理職会議についても、課題の共有等、有意義な機会となった。また、今回2回目となる、全保護者を対象としたお話し会では、中等部の校長、教頭が具体的なカリキュラム、学校生活等について説明し有意義な情報提供の機会となった。</p> <p>保護者との連携については、学校との信頼関係を築くことができているが、携帯の使用、車の使用等、保護者自身のマナーについては課題が見られる。</p> <p>大学との連携については、4年生の歴史学習や研究への指導助言、また、国際理解教育における学部生、大学院生等の協力等については継続できているが、その他の連携については進んでいない面もある。</p> <p>【今後の改善方策(Action)】</p> <p>初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。また、教員の初中全体会議を充実させるために、内容・方法についてさらに改善を加えたい。</p> <p>保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。</p> <p>また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。</p>
---	--

4 校長の意見書

関西大学 初等部

校長 田中達也

開校から9年。保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け貴重なものであると考えている。

今回も、校長としてまず注目したのは、保護者アンケートの「保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか」、児童アンケートの「初等部に入学して良かったですか」の設問である。今回もこの項目の肯定的評価が非常に高い割合を維持していることは、学校として大変嬉しい結果であり、今後も100%を目指していきたい。また、日々の教育に真摯に熱意を持ってあたった全教職員と、深い理解と協力をいただいた保護者の方々に感謝したい。

学習指導面においては、思考力育成を柱とした本校の取組が保護者に評価され期待されていることがアンケートの結果に出ている。ただ、各教科等のカリキュラム作成については、初等部6年間の系統性及び中等部とのつながりを意識した内容について、教員に課題意識があることがわかるので、今後さらに検討、修正を加えていかなければならない。

生活指導面においては、各教員による各学年・学級の安定した経営のもと、児童は落ち着いて毎日の学校生活を送り、意欲的に学校行事に臨むことができたと考えている。縦のつながりについても、全学年がふれあう機会が定着し児童相互の良好な関係づくりを進めることができたと考えている。今後、行事的なことだけでなく日常の学校生活の中での可能性について検討していきたい。

特別な教科となった道徳については、趣旨・目的等について教員間で情報共有し、カリキュラム作成を進めるとともに、評価（通知簿）にもいかすことができた。

最後に、中等部との連携・接続については、保護者の肯定的評価が上がった昨年度とほぼ同様の結果になったものの、評価項目の中では肯定的評価が低い傾向にあるので、さらに検討を加えたい。

今後も、管理職及び全教員で課題を共有し、2020年度の新教育課程完全実施に向け、初等部の教育活動改善を進めていきたい。

5 アンケート結果

2018年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（教員／保護者用）

2018年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）

2018年度 関西大学初等部学校評価アンケート質問項目（児童用）

2018年度 児童アンケート集計（児童）

以上

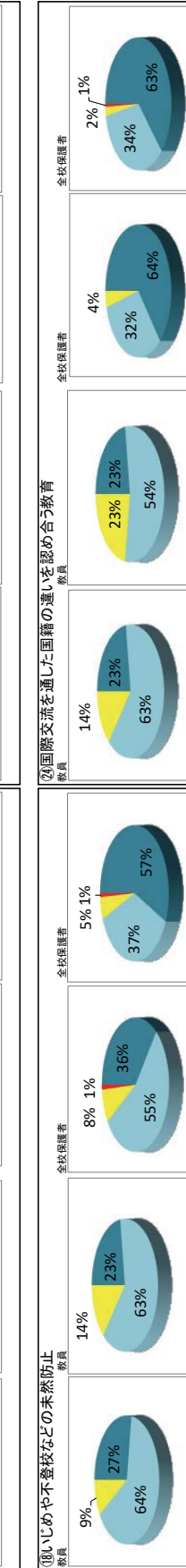
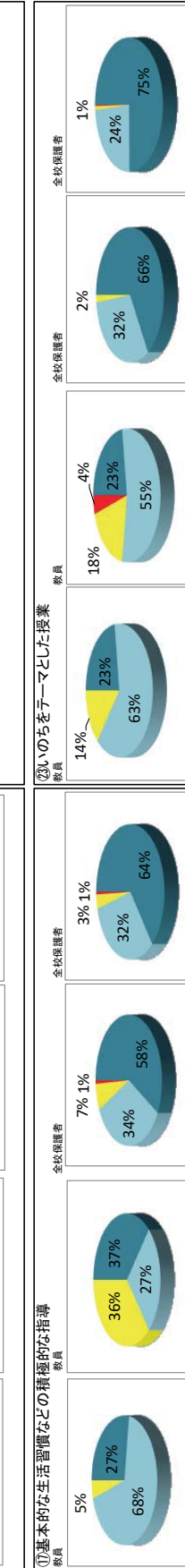
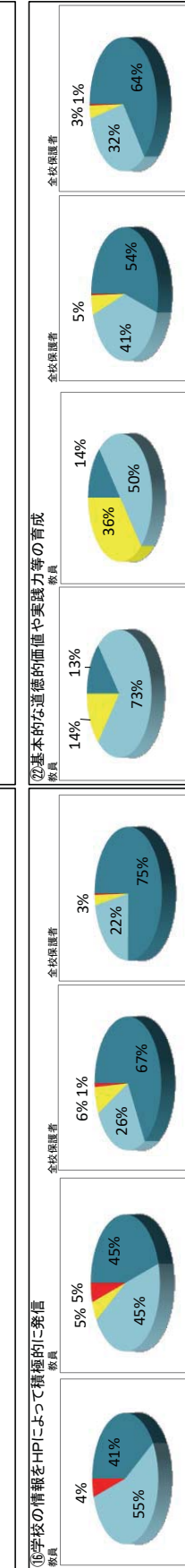
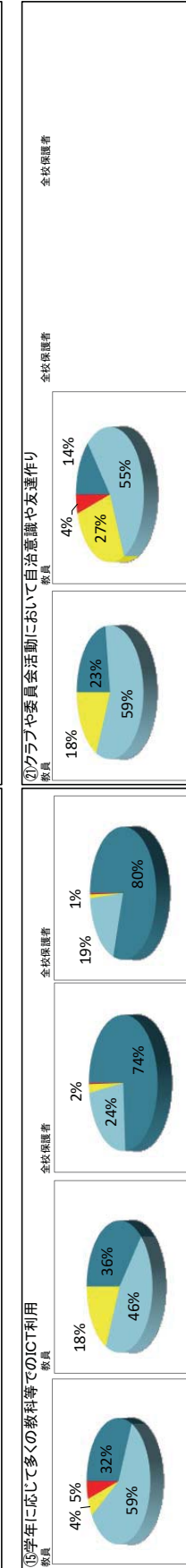
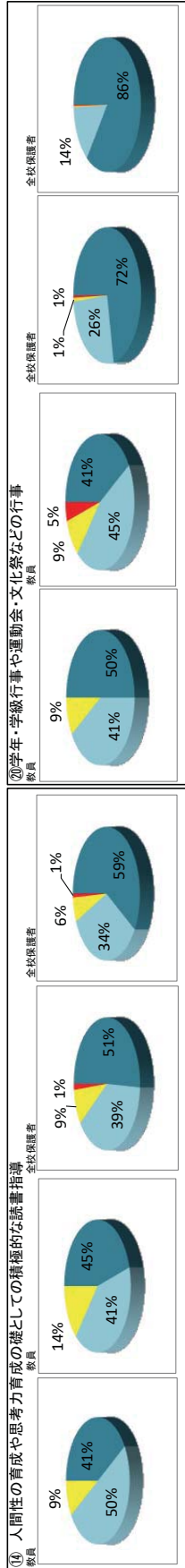
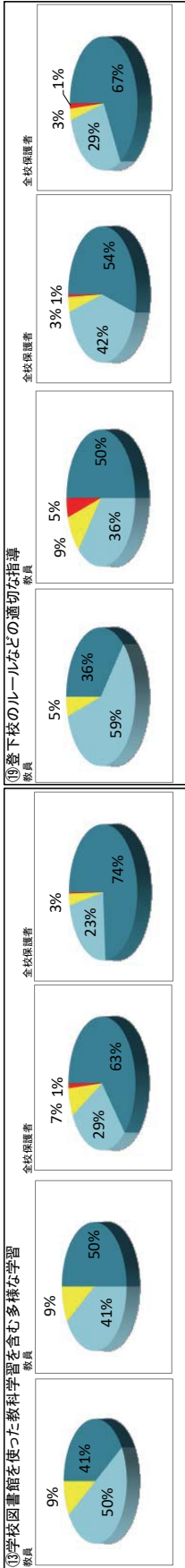
2018年度 学校評価アンケート（質問項目）

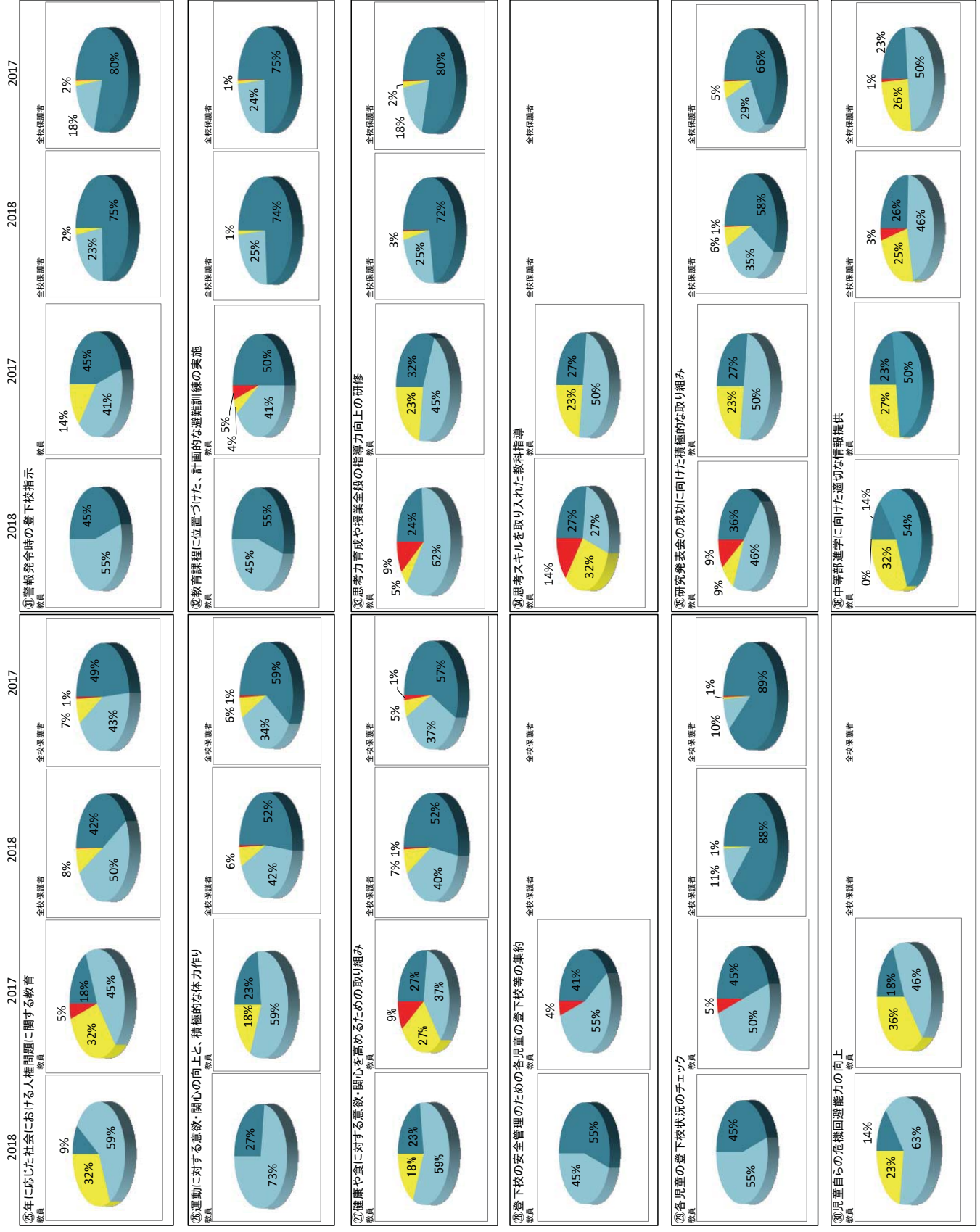
教員用	保護者用
<p>⑨自学の独自性 (教育方針)</p> <p>(1) 学級経営</p> <p>(2) 学力向上</p> <p>(3) 英語教育</p> <p>(4) 国際理解</p> <p>(5) 図書館</p> <p>(6) ICT</p> <p>(7) 生徒指導</p> <p>(8) 特別活動</p> <p>(9) 道徳教育</p> <p>(10) 人権教育</p> <p>(11) 健康教育</p> <p>(12) 安全管理</p> <p>(13) 研修</p> <p>(14) 連絡指導</p> <p>(15) 入試広報 ・連携</p>	<p>①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。</p> <p>②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。</p> <p>③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。</p> <p>④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。</p> <p>⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。</p> <p>⑥思考や重視の指導が積極的に行われている。</p> <p>⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。</p> <p>⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓蒙、指導等)</p> <p>⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。</p> <p>⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。</p> <p>⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。</p> <p>⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。</p> <p>⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。</p> <p>⑭人権性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。</p> <p>⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。</p> <p>⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。</p> <p>⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。</p> <p>⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。</p> <p>⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。</p> <p>⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。</p> <p>㉑クラブや委員会活動において自治意識や女子力を図っている。</p> <p>㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。</p> <p>㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)</p> <p>㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。</p> <p>㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。</p> <p>㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。</p> <p>㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。</p> <p>㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。</p> <p>㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。</p> <p>㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。</p> <p>㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。</p> <p>㉜各種避難訓練や教育課程に位置づけ、計画的に実施している。</p> <p>㉝思考力育成や授業発表会の指導方向上の研修を積極的に実施している。</p> <p>㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。</p> <p>㉟第9回研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。</p> <p>㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。</p> <p>㊲中面的な入試・広報活動が行われている。</p> <p>㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。</p> <p>㊴教育後援会と適切な連携が行われている。</p> <p>㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。</p>
<p>①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓についてご存知ですか。</p> <p>②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われていますか。</p> <p>③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。</p> <p>④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われていますか。</p> <p>⑤学力をつけるために工夫された授業が積極的に取り入れられていると思われていますか。</p> <p>⑥どの学年でも思考力や重視した学習が適切に進められていると思われていますか。</p> <p>⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われていますか。</p> <p>⑧学年に応じた宿題や自主学習等の家庭学習を積極的に進める指導を行っていると思われていますか。</p> <p>⑨コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われていますか。</p> <p>⑩テレビ交流など、外国と積極的に国際交流を進めていると思われていますか。(2年～6年保護者のみ)</p> <p>⑪図書館では読書だけでなく、ミュージアム学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。</p> <p>⑫読書の時間などを設けるなど、積極的な読書指導が行われていると思われていますか。</p> <p>⑬授業等で電子黒板やコンピュータ等の教育機器が効果的に活用されていると思われていますか。</p> <p>⑭HPや学年・学級通信・ブログ等から初等部の様子を知ることができていると思われていますか。</p> <p>⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が積極的になされていると思われていますか。</p> <p>⑯いじめや不登校が起こらないように取り組んでいると思われていますか。</p> <p>⑰交通ルールやマナーの指導、集団下校指導(年3回)等、適切な登下校指導が行われていると思われていますか。</p> <p>⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が積極的に行われていると思われていますか。</p> <p>⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を積極的に行っていると思われていますか。</p> <p>⑳学年に応じて「いのち」や成長に関する授業に積極的に取り組んでいると思われていますか。</p> <p>㉑国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を積極的に行っていると思われていますか。(2年～6年保護者のみ)</p> <p>㉒学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われていますか。</p> <p>㉓体育の授業や体育的行事を通して積極的な体力作りを行っていると思われていますか。</p> <p>㉔給食指導など、積極的に食育に取り組んでいると思われていますか。</p> <p>㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に実施されていると思われていますか。</p> <p>㉖警報発令時等の登下校についての内容についてご存知ですか。</p> <p>㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を計画的に実施していると思われていますか。</p> <p>㉘初等部の教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われていますか。</p> <p>㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われていますか。</p> <p>㉚中等部進学に向けて必要な情報を得ることができてきたと思われていますか。(5,6年生保護者のみ)</p> <p>㉛初等部は教育後援会と緊密な連携がとれていると思われていますか。</p> <p>㉜学校・学級からの連絡や相談が必要に応じて適切に行われていると思われていますか。</p>	<p>①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。</p> <p>②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。</p> <p>③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。</p> <p>④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。</p> <p>⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。</p> <p>⑥思考や重視の指導が積極的に行われている。</p> <p>⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。</p> <p>⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。(家庭への啓蒙、指導等)</p> <p>⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。</p> <p>⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。</p> <p>⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。</p> <p>⑫英語の授業や総合的な学習の時間を使った国際理解教育が推進されている。</p> <p>⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。</p> <p>⑭人権性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。</p> <p>⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。</p> <p>⑯学校の情報がHPや学年・学級通信・ブログ等によって積極的に発信されている。</p> <p>⑰基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。</p> <p>⑱いじめや不登校などの未然防止に取り組んでいる。</p> <p>⑲登下校のルールなどについて積極的な指導を行っている。</p> <p>⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。</p> <p>㉑クラブや委員会活動において自治意識や女子力を図っている。</p> <p>㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。</p> <p>㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。(健康教育とリンク)</p> <p>㉔国際交流等を通じ国籍などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。</p> <p>㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。</p> <p>㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りを行っている。</p> <p>㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取組を積極的に行っている。</p> <p>㉘登下校の安全管理のため、各児童の登下校路等の集約ができています。</p> <p>㉙各児童の登下校状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。</p> <p>㉚児童自らの危機回避能力の向上に努めている。</p> <p>㉛警報発令時等の登下校指示が明確に家庭に伝わっている。</p> <p>㉜各種避難訓練や教育課程に位置づけ、計画的に実施している。</p> <p>㉝思考力育成や授業発表会の指導方向上の研修を積極的に実施している。</p> <p>㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。</p> <p>㉟第9回研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。</p> <p>㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。</p> <p>㊲中面的な入試・広報活動が行われている。</p> <p>㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。</p> <p>㊴教育後援会と適切な連携が行われている。</p> <p>㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。</p>

2018年度 学校評価アンケート 集計

	2018	2017	2018	2017	2018	2017
①「学の変化」の精神や校則に則った教育	14%	9%	9%	77%	18%	50%
	27%	64%	32%	50%	23%	63%
②公立や他私学に負けない教育	4%	55%	41%	55%	27%	64%
	18%	27%	55%	27%	18%	64%
③子どもを初等部に入学させてよかったか。	1%	79%	12%	87%	1%	79%
	20%	79%	12%	87%	1%	79%
④一人一人が大事にされる学級作り	9%	68%	23%	68%	9%	50%
	14%	50%	36%	50%	14%	50%
⑤基本的な学習ルール	9%	77%	14%	77%	9%	43%
	23%	41%	36%	41%	4%	48%
⑥思考力重視の指導	9%	55%	36%	55%	9%	41%
	9%	36%	55%	36%	9%	41%
⑦「学の変化」の精神や校則に則った授業	1%	63%	1%	63%	2%	63%
	36%	63%	1%	63%	2%	63%
⑧各学年に応じた家庭学習	9%	64%	27%	64%	9%	64%
	18%	64%	27%	64%	18%	64%
⑨中等部接続に向けたカリキュラム作成	18%	50%	23%	50%	18%	50%
	9%	50%	23%	50%	9%	50%
⑩初等部一貫の英語カリキュラム作成	19%	43%	33%	43%	19%	43%
	5%	43%	33%	43%	5%	43%
⑪コミュニケーション技能を重視するなど、工夫した英語の授業	5%	50%	45%	50%	5%	45%
	5%	50%	45%	50%	5%	45%
⑫英語の授業や総合的な時間を使った国際理解教育	14%	41%	45%	41%	14%	54%
	14%	41%	45%	41%	14%	54%
⑬学の変化の精神や校則に則った授業や新教育課程への対応	1%	71%	28%	71%	1%	71%
	28%	71%	1%	71%	28%	71%

2018 2017 2018 2017 2018 2017 2018 2017





2018

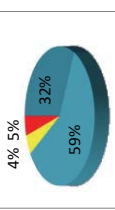
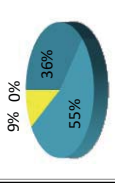
2017

2018

2017

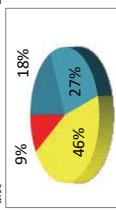
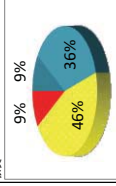
⑦計画的な入試・広報活動

教員 教員 全校保護者 全校保護者



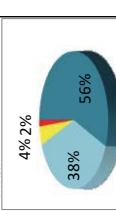
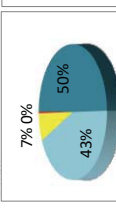
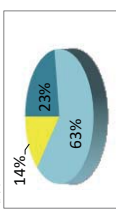
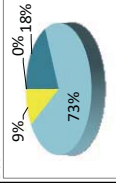
⑧研修を中心とした関西大学との連携

教員 教員 全校保護者 全校保護者



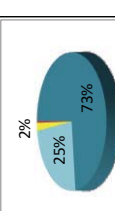
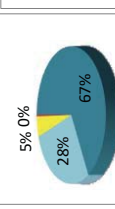
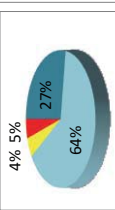
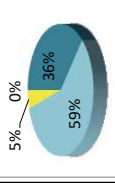
⑨教育後援会との緊密な連携

教員 教員 全校保護者 全校保護者



⑩学校や家庭との連絡や懇談

教員 教員 全校保護者 全校保護者



学校生活をふりかえって

名前 ()

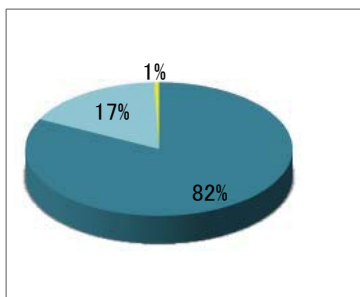
入学からこれまでの学校生活をふりかえって、下の質問にこたえましょう。

当てはまる番号に○をつけましょう。

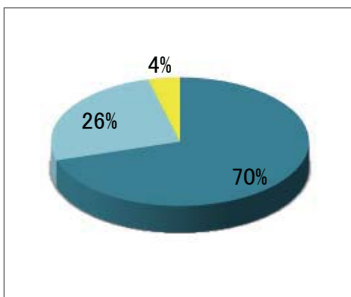
	児童用質問	1よく当てはまる	2やや当てはまる	3やや当てはまらない	4全く当てはまらない
①	関西大学初等部に入学してよかったですか。	1	2	3	4
②	学校は楽しいですか。	1	2	3	4
③	勉強をがんばっていますか。	1	2	3	4
④	思考力がついたと思いますか。	1	2	3	4
⑤	先生方は工夫した授業をしていると思いますか。	1	2	3	4
⑥	いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。	1	2	3	4
⑦	iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。	1	2	3	4
⑧	運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。	1	2	3	4
⑨	ルールを守って学校生活を送ることができましたか。	1	2	3	4
⑩	いじめやなまはずれなどをしていませんか。	1	2	3	4

2018年度(児童アンケート)4年から6年 2019.2/4-2/8実施

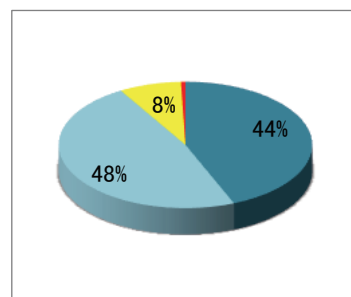
①関西大学初等部に入學してよかったと思えますか。



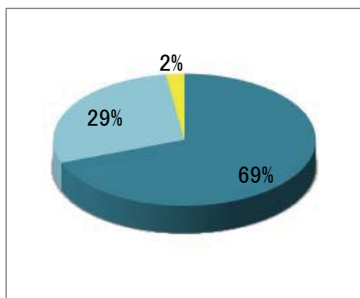
⑤先生方は工夫した授業をしていると思えますか。



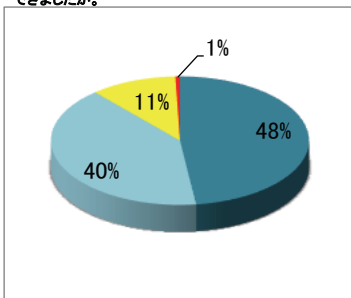
⑨ルールを守って学校生活を送ることができましたか。



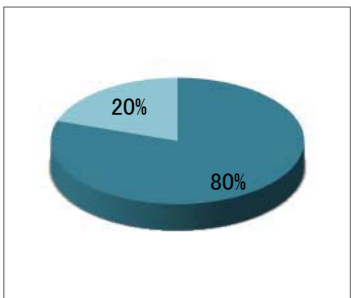
②学校は楽しいですか。



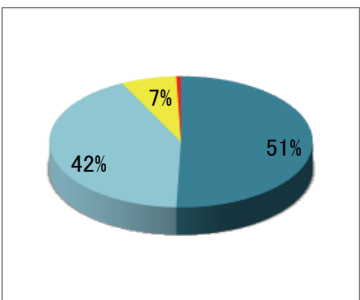
⑥いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか。



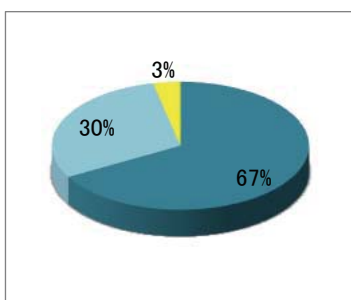
⑩いじめやなぐまはずれなどをしていますか。



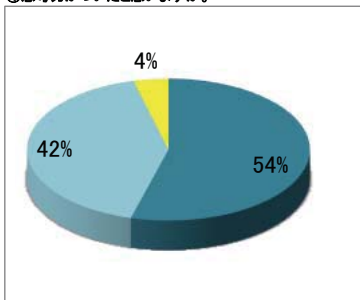
③勉強をがんばっていますか。



⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



④思考力がついたと思えますか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。

